

(家庭数配布)



うまくいかなかった時にこそ問われる人間性

最近の大きな話題、そのひとつにサッカーワールドカップ・日本代表の戦いが挙げられるでしょう。その中で私が最も感動したのは、2試合目のコスタリカ戦で負けた直後の選手たちのコメントです。どの選手からも前向きな気持ちが感じられました。負けた試合を無駄に振り返ろうとせず、即座に切り替え、次を考え準備していこうとする姿勢、だからこそそれぞれが日本代表として選ばれているのだらうと思いました。(選手の言葉通り、次のスペイン戦は見事に勝利しました。)

誰でも、うまくいく時もあればそうはいかないこともあります。順調な時はそのまま構いません。問われるのはうまくいかなかった時です。やる気を失くしてしまうのか、「いや、次こそ!」とさらに気持ちを強く持つのか、1回1回はほんの少しの差かもしれません。しかし、「ちりも積もれば山」で10年、20年経てば圧倒的な差となって表れます。ヒットの世界記録を持つ元メジャーリーガーのイチローさんは4000本のヒットを打った時、「毎日のほんの少しずつの積み重ねがとんでもない遠いところへ行くいちばんの近道」と言っています。

ワールドカップの話に戻ります。勝負事ですから勝つことも負けることもあります。肝心なのは負けた時こそどう考えるかです。この紙面で度々述べているように、私はコスタリカ戦直後の選手のコメントから、どのような状況であれ、前向きな気持ちがやはり大事なのだと教えてもらいました。ワールドカップを観たという方は多いと思います。皆さんは、何を感じられましたか?

ワールドカップの話題から、私たち大人が子どもたちの前で心がけなければならないと思うことに話をつなぎます。私たち大人だって人間ですから、時には失敗することもあります。私も、今まで数多くの失敗を繰り返してきたように思います。失敗をしてしまえば、まずは謝るしかありません。ここで大切なのは、大人が子どもたちの前でどんな姿勢を見せるかだと思っています。言い訳は一切不要、謝罪の気持ち100%です。ただし、もし失敗したとしても、その後どう振る舞うのか、誠心誠意謝

るその姿を見せることが、子どもたちへ教えることにもなるのではないかと考えています。ここで求められるのがタイトルにもあります「人間性」です。子どもたちは、大人に失敗しないことを求めているのでしょうか。失敗しないことに越したことはないのですが、子どもたちはそれよりも大人の人間性を見ているように思います。子どもは大人を見て学ぶ、大人は子どもに見られていると意識し、より高みを目指す、このような関係になればいいですね。これで共育(教育)が成り立ちます。

今年もお世話になりました!!

間もなく2022年が終わります。今年も本当にお世話になりました。コロナ対応もまだまだ続きそうですが、来年もより明るい年にしたいです。もうすぐ冬休みに入ります。どうぞご家族でゆっくりお過ごしいただき、子どもたちがしっかり充電できるようにしてあげてください。

**2022年 お世話になりました。ありがとうございました!
よいお年をお迎えください。**



**来年の干支はウサギ。
子どもたちの大きな
ジャンプを期待します!**